近くで助け合い、つながるみやまえ
miyamae-gokinjosan.com

宮前区ご近所情報サイト『みやまえご近助さん』

宮前区の町内会・自治会への加入方法

右記の二次元コードからアクセスして、必要事項を入力の上送信してください。

※町内会･自治会に関するお問い合わせ
宮前区役所地域振興課
（宮前区全町内･自治会連合会事務局）
TEL:044-856-3135
FAX:044-856-3280

宮前区には
70の町内会・自治会があり
約61,000世帯が加入しています。
お近くの町内会・自治会へぜひ加入しましょう。

編集･発行：宮前区役所地域振興課
（宮前区全町内･自治会連合会事務局）
【第1版　2024年4月発行】

企画･編集･デザイン：宮前まち倶楽部　イラスト：のぐちようこ

みやまえ ご近助 ハンドブック

子育て世代
区に転入した人にも
手に取ってほしい１冊です♪

宮前区に
住んでる人が地域にとびこんで綴った
111本のリアルストーリー

入る方が
いいのかな？

町内会・自治会って
何のためにあるの？

小さな地域を見つめてみたら
大きな発見がありました。

ディープな取材を通じて生まれた交流、
子育て世代が感じる疑問や、
町内会・自治会の変化の姿を
１つの冊子にまとめました。

全ての記事はこちらに収載されています。
宮前区ご近所情報サイト
『みやまえご近助さん』

近助

子育て世代は、自分が住むまちに何が欲しいと思ってる？

徹底調査

令和元年８月～ 10月に属性別ヒアリング＆アンケート調査を実施（宮前まち倶楽部）。

調査結果

01 ベビーカーで行ける徒歩圏内の小さなエリアが生活圏。そこでの「安心＆安全な居場所」を求めている。

『最近のまちの変化でよかったことは？』

1．イベントやお祭り
2．草を刈ってくれた、公園がきれいに掃除されている
3．街灯がついた

小さい子どもがいるとふだんは遠出というより近所ですごしてます。

ひらめき

02 町内会･自治会がやっていることって、子育て世代が必要としていることもありそう。

アイデア

03 情報がちゃんと届けばよいのでは…？

コミュニティカフェに興味があります。

子どもといっしょでも安心して楽しめる場所が知りたいです。

アクション！

04 「ご近助コンシェルジュ」という仕組みを作って調べてみよう！

ハンドブックの**登場人物**を紹介します！

自治会の大ベテラン **ジチゾウさん**

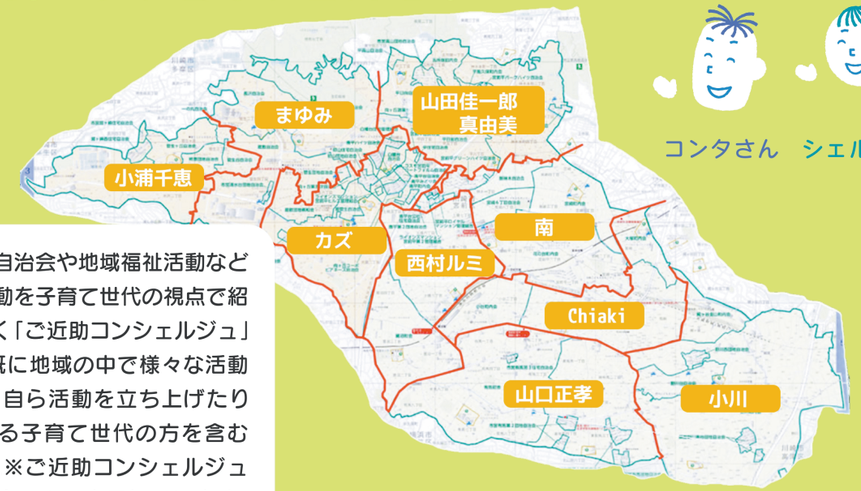
町内会で活動中の子育て中のママ **マチコさん**

新しく引っ越してきた **ミヤさん・マエスケさんファミリー**

令和２年 ご近助コンシェルジュ発足！

９人を代表して私たちがご案内します

コンタさん　シェルミさん



町内会・自治会や地域福祉活動などの地域活動を子育て世代の視点で紹介していく「ご近助コンシェルジュ」として、既に地域の中で様々な活動に関わり、自ら活動を立ち上げたりもしている子育て世代の方を含む９人です。※ご近助コンシェルジュはニックネームで表示しています。

チャレンジ

町内会・自治会の活動を記事にして届けよう。子育て世代が求めているような活動が発見できるだろうか？

- 近所で助け合う
- 近所を楽しく
- 近所と育む
- 近所を美しく
- 近所と繋がる

ご近助コンシェルジュは、発足から4年で111本の記事を執筆、「みやまえご近助さん」サイトで発表してきました。その中で、町内会・自治会の活動には、まさに子育て世代が求めている活動があることを、取材した自分たちの言葉で伝えています。また同時に、とっつきにくいと感じていた町内会・自治会が、地域や社会の変化にあわせて変わろうとしている姿も発見、記事にしています。

★ このハンドブックでは、それらの一部を抜粋して紹介します。是非御一読下さい。
（記事の全文は「みやまえご近助さん」サイトで御覧になれます。）

Next→

ここまでやってるの？！

宮前の安心安全を深堀り調査！

近所で助け合う

パトロールのコースも時間帯も変えているんです。

防犯パトロール

治安が良いと感じるまちは、日々を見つめる目「防犯パトロール」があるからなんだと知りました。

町内会の防犯パトロールに参加させていただいた。参加したのは40代から70代のメンバー11人。この日は新年第1回目。毎月3 回ほど日曜日に回っているそうで、花の台町内会は広いためルートも複数あり、どこのルートに行くかは日によって違う。

この日も準備を整え、防犯を呼びかけるスピーカーを準備し、出発！スピーカーから流れるのは、地元の中学生が吹き込んだ声。大学生となった今でもパトロールに参加している。

パトロールに参加した時に見えた富士山と。

戸締まり、火の元確認の声掛けが流れる中、防犯部長の小林さんは「内容を変えたいんだよね。」と言っていた。お話を伺うと、オレオレ詐欺への注意喚起も入れたいとのこと。コロナで家にいることも多いので、少しでも情報を受け取る機会を増やしたいのだと言う。そもそも防犯パトロールは「地域住民自らが地域ぐるみでまちの安心を見守っている」ことをアピールすることで、犯罪者に「見られているのではないか。通報されてしまうのではないか。」と危機感を抱かせることや、地域住民の防犯意識を高めるための声掛けを目的として行うもの。人目があることが犯罪の抑制につながるのだ。

治安がいいといわれる宮前区の今の姿は、こうしたボランティアの地道な活動で支えられてきたのだ。

町内会がなくなったとき、その役割はどこが担うのだろう?自分の住む町を自分たちの手で支えることを手放していいのだろうか?町内会は、ボランティア活動だ。誰もが町のためにやっている。改めてその存在の大きさを感じた。（南）

いざって時に使えるように いろいろな道具の設置までおこなうのですね。

［ 写真左 ］スピーカーの声の彼は取材時は大学生。

避難所って誰が開設するの？

もし自宅以外で避難生活をするなら避難所に行く。けれど突然の災害時に誰がどうやって避難所を開設するのか、知らない人もいるのではないでしょうか。ご近助コンシェルジュが見た避難所開設訓練をご紹介します。

避難所開設訓練

避難するだけでは、避難生活は送れないんです。まずは避難所開設、そこから。

野川小学校で「避難所開設訓練」が行われるとのことで、取材に行ってきました。私は実はこのような訓練が行われていることすら知りませんでした。全てが初めて見るもので、特に印象的だったのはトイレ設置でした。速やかに皆さんが設置していたことに驚きましたし、いざとなった時のことを考えると、トイレって本当に重要だと思ったこと、また、障害がある人は大変だなと、トイレに関してはネガティブな感情が多かったです。

でもそれもひっくるめて、備えあることが何より大切だと感じ、自宅の避難道具を見直そうと思った、貴重で勉強になった取材となりました。リアルな訓練は重要だと、この時初めて、心からそう思いました。（小川）

体育館では、大震災発生時において避難所を開設する避難所開設訓練が東有馬町会、市営有馬第一住宅自治会、市営有馬第二団地自治会、県営有馬団地自治会で構成される有馬小学校避難所運営会議を中心とする有志メンバーで行われました。宮前区が作成した避難所開設を目的にした「避難所開設キット」に基づいて、総務班、情報広報班、救護班、環境衛生班、食料物資班の5班に分かれて、避難所で使用する各種資器材の取り扱い訓練が行われました（各班10名程度で約50名での訓練）。避難所開設キットには、それぞれの班の実行カードが入っており、内容を見ながら順番に進めることでどなたでも開設できるようになっています。これを使って約1時間の訓練となりました。

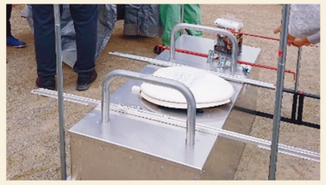
訓練終了後、山根良子会長からは以下のコメントをいただきました。

「開設キットの避難所設営自体の訓練は事前のご指導もありスムーズではありましたが、まだ初歩段階だと思います。体育館自体が解錠された状態での訓練なので、実際に大地震が発生した際には校舎内の確認や体育館を解錠すること自体が大変かもしれない。訓練はこれまで数回重ねてきているが、ビデオを見たりすることよりも実践が大事で経験がものを言います。私の団地においても、近隣の一戸建て住民の方へのご協力や備蓄品などの確認や資材を事前に揃えておく必要があります。訓練を重ねながら皆で助かろうという気持ちをもってもらいたいです」（山口正孝）

避難所開設のために驚くほど多くの準備や訓練がされていました。

赤ちゃんのミルクの備蓄

プライベートルームテントの設置訓練



仮設トイレの設置訓練

特設公衆電話を開設する訓練

車いす操作を体験

今のため未来のため…

想いを受け継ぎ根付く地域の行事

近所を楽しく

納涼盆踊り大会

幼い頃の思い出を創ってあげたい気持ちが皆の原動力。

2022年7月23日㈯18時から東名犬蔵公園において納涼盆踊り大会が行われた。

新型コロナウイルス感染症が急増してきたことで、区内では夏祭りの延期・中止が相次いだが、「開催を決定したのは、感染予防対策を十分考慮した上でやれることをやろうとなりました。特に子どもたちには、3年連続中止となると小学生の期間の半分が中止ということになってしまうので、地元の文化に触れる機会を作りたい」と、自分たちの地域を想う主催者側の声はあたたかい。

いつもの焼き鳥や焼きそばなどの食べ物の屋台が無く、楽しさが半減するかと心配していましたが、参加された皆さんの楽しそうな様子を見て、やってよかったなと思いました。私も「踊りだけだし、感染のリスクも考えて、人出は多くはないだろうな」と思っていたが、会場が近づくにつれ、人の数が増え、会場が目に入ったときには「こんなに人がいる！」と驚いた。

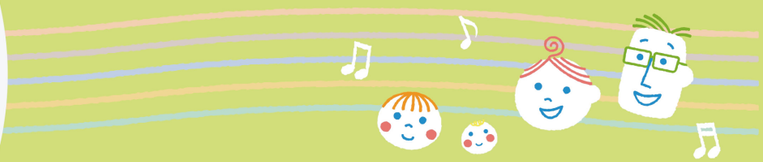
その光景を目の当たりにして、「多くの人が『夏の風物詩』を待ち望んでいたんだなぁ」と、しみじみと感じた。

本来、自治会は加入者全員が協力し合って成り立つものだが、この類のコミュニティは、「自治会＝自治会役員」と見られる傾向が強く、この世の中のほとんどのことがお陰様によって成り立っていたり、支えられたりしていることに気づかれずにいる。今回のイベントを取材し、地域のそれはお陰様ではなく、よく知った人たちによって成り立っていることを改めて感じさせられた。

自治会役員さんは、翌朝8時から、今回の「夏夜の夢の跡」を片付けるべく、会場にふたたび足を運んでいたことをつけ加え、今回の取材記事を締めくくる。（カズ）

閉会後パトロール開始

お祭にいくと、その地域の雰囲気を体験できそう。



初山十王堂・外観／イチョウの大木は十王堂のご神木

初山十王堂、初山獅子舞、自治会館

静かに佇む石碑

370年続く農家さんから伺った初山の歴史。

初山十王堂は、江戸の元禄年間（1688~1704）に建立され、天保15（1844）年当時の世話人6人を中心に地域の寄進で入佛供養が盛大に行われました。その昔はお坊さんが住んでいた記録もあるようですが、詳しいことは不明で、廃れていた時期も長かったようです。2003年、天保の供養の世話人の子孫にあたる故・矢澤茂さんらでつくる初山十王堂世話人、十王堂墓地管理組合が、十王堂の本尊にあたる閻魔大王菩薩や地蔵菩薩などを修復、8月16日に開眼供養を行い宵祭りが行われました。

自治会館は十王堂の境内に1969年に建てられたそうですが、初山獅子舞と十王堂墓地、自治会館の間には直接的な関係はないと言います。5つの自治会が持ち回りで清掃を行っているそうで、清掃を終えた後ということもあり、一層清々しい空気がそこにありました。お話を伺った初山獅子舞保存会・会長代行の小金井睦雄さん（79）もこの地で370年ほど続く農家さん。「350~400年と言ってもすごいことではないんだよ。同じように、みんな今こうしてここに生きているじゃない？単純に記録が残っているかいないか、ただそれだけよ。」と話します。識字率が上がり、記録に残せるようになったのがその頃なのでしょうか。自分たちがどこから来て、今に至るのか。記録することの尊さを感じます。（まゆみ）

どんど焼き

ちいさな火が、1000人超えの地域行事として復活。

子どもの頃から楽しみだったどんど焼きが無くなり、寂しく感じた私は隣近所に声を掛け、自宅で火を起こし、子どもたちと三色団子を作り、細々とどんど焼きを続けた。そして2018年、地元の農業関係者有志5人によって農協が管理するとんもり谷戸の圃場でどんど焼きを開催。チラシを作り、平日向自治会や平日影自治会、初山自治会が回覧板で配布するなどご協力いただき、来場を呼び掛けた。2019年からは白幡八幡宮の宮司によるご祈祷を行い、開催する田んぼの米で作った地酒や地域の農家の野菜、それらを用いた豚汁やトマトカレー、焼菓子などを販売。2020年には1000人以上が参加し、平、初山地域に定着した。

自治会や来場者と協力し、地域イベントを作り上げていけることは進歩だ。来年は更なる進化を目指し、とんもり谷戸で穫れた藁のみでお飾りを作り、いずれは燃やせる正月飾りだけでお焚き上げをしたい。（山田佳一朗）

無くなった行事を復活させようとする動きもあるんですよ。

知っている人がいて
つながりを感じられる日常

近所と育む

孤独を生まないように

コロナ禍の中でも手渡しで生まれたもの。敬老の日のお祝い。

コロナ禍で自治会活動が開かれなくなっていた2021年。1971年、72年に分譲された55棟1000世帯が住む大規模団地宮前平グリーンハイツでは「敬老の日」のお祝い品が手配りされた。
お祝いする世帯数は330。お祝い品の紅白饅頭を手配りする方法をＺＯＯＭミーティングでつめ、準備した品は集会所で55棟のそれぞれの幹事に渡し、幹事は急いで配る。外出を見つけ、慌てたりもあったが、無事に手渡しができた。どこでも渡しながらちょっとした短いご近所ならではの会話があった。「見守り」と聞くとハードルが高く感じるが、ここには、実際はもっと自然体のかかわりがあった。ごく当たり前の近所付き合い。普段からお互いを知ってるからこその気持ちの通い合い、穏やかさがあった。（南）

地域子育て支援センターのがわ

洋服のおさがりが並ぶ「おさがりWEEK」や絵本も。それだけじゃない、ママの心の拠り所なのです。

野川台にある【地域子育て支援センターのがわ】を取材しました。
野川こども文化センターの中にあり、月・水・金（祝日もOPEN）9:30～12:30に開いている0歳から就学前の子どもと保護者の方が遊べる場所です。おもちゃや、小さな乗り物があり、絵本の貸し出しも行っているようです。
この日は、おさがりWEEK中で皆さんが持ち寄ったおさがりが並んでいました。月の中で色々な日があるようで、ママが大人と話せる日もあり、支援センターは、親子が自由に遊べる場であり、ママの心の拠り所でもありますね。
支援センターに通い、子ども同士の関わり、父母以外の大人との関わりが言葉の発達・手足指先の成長・何よりも心の成長に繋がっていくだろうなと、このような人と交わること、場所がいかに大切かと感じます。ママたちから「支援センターがあって救われた」という声が多く聞かれ、子育ては1人ではできないよなと再認識しました。大変なことが多い時代ですが、感染対策などにはまだまだ気をつけて、支援センターに足を運んでみて下さい。温かく迎えてくれますよ。（小川）

25年つづく活動は沢山の自然を守っています。

平瀬川の活動について

年を経るごとに川はきれいに。点ではなく、線で、そして面で。ひと続きに影響し合って今日に至る。

3月29日、初瀬橋ではソメイヨシノが満開を迎え、平瀬川沿いには色々な種類の桜の木が植えられ、とっても楽しい散歩コースになっています。「平瀬川の活動を見に来てよ」という声を頂いていて、ミーティングに同席させていただきました。
ミーティングに参加していたのは、近隣農家の方や元商店会会長、こども文化センターの方、スポーツ推進委員、元中学校の懇話会会長などなど。この「平瀬川流域まちづくり協議会」は地域住民が立ち上がり、自治会等関係諸団体に呼び掛け25年前に発足。「平瀬川がきれいで地域で自慢できる川になるよう」川の清掃からスタート。川に沈んだ古自転車やガス台の引き上げや空き缶・ビニールゴミ拾いなど。年を経るごとに川はきれいになっていきました。
「平瀬川流域まちづくり協議会」発足のすぐ後、「飛森谷戸の自然を守る会」・源流域「水沢森人の会」が立ち上がり、「飛森谷戸の自然を守る会」も今年25周年を迎えます。水源は稗原・水沢から蔵敷、初山、神木を通り、東高根森林公園、久地円筒分水へと続く平瀬川。点ではなく、線で、そして面で。ひと続きに影響し合って今日に至るんだなぁと改めて思います。（まゆみ）

いってみようかな。

父母以外の大人と関わる場（支援センターのがわ）

地域で自慢できる川をめざしています。

屋外環境って大切！

きれいな公園は安心につながる。

近所を美しく

地域の公園清掃

公園は地域の顔「自分達の公園だから大切にしたいよね」。

小台町内会では、3月、7月、9月、12月の年4回、市内美化活動の9月は同町内会にある小台、小台東、小台西、小台北の4つの公園を清掃し、3月と7月は小台公園、12月は小台西公園を毎年清掃しています。
場所を決め町内会で統一して清掃することで顔を合わせる機会が増える、公園清掃には人と人とをつなぐ役割もあったのですね！
同町内会会長安藤髙久さんは「『公園は地域の顔、財産』、きれいにして使っていこう」と言われました。公園清掃には、毎回40人ほどが参加、小学生くらいの子が友達同士で参加し、自分と同じか、それよりも長い竹ぼうきを一生懸命動かして落ち葉を掃いている姿はとても微笑ましかったです。誰かが手をかけてくれて公園がきれいになる、地域に守られていることを多くの人に知ってほしいと思いました。
（Chiaki）

自分の身長より長い竹ぼうきを操る

公園花壇

「児童花壇」が生まれたきっかけは、祖父母世代との交流。

菅生台自治会内の菅生第四公園には、稗原小学校の児童が管理している児童花壇があります。
自分の住むまちを研究する授業で小学4年生が同公園を調べるうち、花壇の手入れをするシニア世代の近隣住民と仲良くなり、自治会とともに、一角を児童花壇にして一緒に活動することになりました。
公園花壇を長年お手入れしている人や菅生台自治会長がサポート。子どもたち自らが、祖父母世代と繋がり交流しはじめた行動力、活動に繋げた自治会。親世代が地域の方々と繋がり、地域で楽しく暮らしていく術を、児童花壇にかかわる子どもたちから教えてもらったような気がします。（小浦千恵「ゆ～ずツクルブ」）

自然と顔なじみに

住み続けたいまちって、どんなまち？

季節の木々や花を楽しみながら、多世代で力を合わせ地域資源を守る動きは脈々と続いています。その代表的な例が各町内会・自治会にある地域の「公園」「街路樹」「花壇」の管理。これを通じていつのまにか知り合いになったり。住み続けたいまちづくりに繋げていきたいという共通の気持ちがまちをきれいに維持しています。

落ち葉清掃

あらためて見つめなおす。美しい我が町。

有馬町会では、街路樹清掃、公園清掃を実施してきました。有馬町内は秋にはイチョウ並木をはじめ、街路樹の木々の紅葉が綺麗な季節を迎え、冬に向かい風に吹かれ葉が散り行き、道路や歩道に葉の絨緞が出来上がります。小学校のPTAでも落ち葉掃きを行っています。12月6日、約２時間前後の作業で驚く程の袋の山が出来、トラックに積まれていきました。
当日の町内全体のデータ:
★当日参加人員（大人147人・こども19人合計166人）
★回収ごみ袋（45L用346袋・70L用50袋合計396袋）
街路樹や公園の木々や街並みは、春には梅や桜の花が咲き誇り、香りが漂い、初夏の新緑が心地よく、秋の紅葉が美しく、冬の寒さに耐える山茶花や椿、水仙や蝋梅も凛とし、2月末頃には木蓮が咲き、そこは今も昔も変わりなく四季を感じることができます。有馬の街並みはとても美しい。こんな世の中、時代だからこそ、あらためて見つめなおすことができました。（山口正孝）

町並みがきれいと感じるのは、こういう活動があるからなのかも。

落ち葉がトラックに山積み

共同で美化活動

平瀬川流域の自治会で連携して美化活動。

平4丁目公園で2022年7月3日、平日向自治会と平日影自治会の夏の清掃が行われた。
平地区には平瀬川をはさんで北は日向、南は日影の2つの自治会があり、さまざまな年間行事を共同で行うことが多い。
9:00に集合し何人かはもう一つの清掃会場の「平会館」へ。残った日向のメンバーは公園の草刈りを始める。「平会館」ではすべての机や椅子を外へ出し、きれいに箒とモップ掛け。毎年床にワックスを掛け、外では高圧洗浄機で汚れを丁寧に落としていく。「平子ども会」の男性チームは、外倉庫からグローブを出し、汚れを取ってオイルを塗るのは「体育部」。その隣では秋祭りで使う提灯をチェック。
平瀬川流域の自治会は毎年、この時期に日を合わせ、清掃活動をしている。参加自治会は上作延・神木本町・平・初山・蔵敷・長沢・水沢など。また、別日に平中学校の1年生も学校活動として公園付近の平瀬川沿いの清掃活動をする。向丘地区では地域の各組織が連携し、幅広い年代の人たちが自ら住む地域の美化に努めていた。（山田佳一朗）

力をあわせて「平会館」の机を運びだし、床清掃～ワックスかけ

いっしょにやってみたら、
楽しさがグッと
増えました！

近所と繋がる

「清掃&ミニマルシェ」

コラボしたことで届けたい人へ「より伝わる機会に」。

2021年12月5日　晴天。老若男女、たくさんの人が集まる中、「こういう時代、こういった出会いと交流がすごく大切になってくると思うので、皆さん短い時間ですけど楽しく過ごしていきたいと思うのでよろしくお願いいたします！」この第一声で、この日、宮崎おちば公園で「公園清掃後のミニマルシェ」が始まった。実は、こういう活動が町内会と市民活動の共催で行われるのは初めてだ。花の台町内会と宮前まち倶楽部は2019年から開催の準備を進め、様々な調整を経て、ようやく開催できるとなった時にはコロナになり、ようやく12月に開催したという念願のプロジェクトだ。町内会の活動を活性化するには、存在を知ってもらうことが第一歩。地域の市民活動が、町内会とコラボすることで、町内会の活動が届けたい人へより伝わった機会になったように感じた。（南）

誰かと一緒に
できることが、近くに
あるっていいですね。

気軽に集まれる公園体操

ふらっと歩いて行ける公園で、自然と顔見知りが増えていく。

南菅生自治会で10年以上も続いている南菅生第二公園の「ひだまり体操」。開始時刻の9時に近づくにつれ、徐々に人が集まり、当日は近隣から26人が集いました。
談笑しながら体操している人、体操に集中している人、様々で、自分スタイルの参加で心地よさそう。みなさんお元気です！というよりも、元気の秘訣が「ひだまり体操」かもしれませんね。

2016年からは2か月に1回、体操後に自治会館で「みんなのカフェ」が開設され、毎回30～40人の方が参加されていましたが、現在はコロナ禍のため中止とのこと。
深い繋がりが生まれているかどうかはわかりません。でも、顔見知りが増え、話し相手がいて、気軽に集まれる場があるって、当たり前のように思えて、実はとてもありがたいことなんだろうと気づかされます。（カズ）

里芋と格闘中
ですね！

土をさわる楽しさを
こどもにも教えたいな。

農家とつながる里芋掘り

親芋・子芋・孫芋と。里芋と一緒に笑顔がつながった。

爽やかな冬晴れのお天気に恵まれました。待ちに待った有馬町会イベント、文化厚生部さん主催の町会内を歩いて里芋掘りを行うイベント「歩け歩け」の日です。町会の皆様と交流をしながら有馬の街を散策。そして畑に到着！　もう身体はポカポカです。
畑の利用にご協力くださる持田様が出迎えてくれました。里芋の株の位置に目印があり、1人ずつスムーズに誘導くださいました。
早速、里芋掘りの開始です！とにかく掘る、掘る！
里芋は、真ん中にとても大きな親芋（種芋部分）があり、その周りに子芋、孫芋とつながっています。普段店頭に並んでいるのは子芋、孫芋になります。周りから丁寧に土を掘り出していき、根っこ部分を引っ張ると大きな親芋が出てきます！大人も子どもも里芋掘りに奮闘！そして袋に入りきれないほどたくさんの里芋を収穫。笑顔いっぱいで里芋を持ち帰りました。（山口正孝）

これが元気の
秘訣なのです。

なんと参加者は450人！

「みんなで運動会」

**パン食い競争もあるよ！
子どもが運営参加で大活躍。**

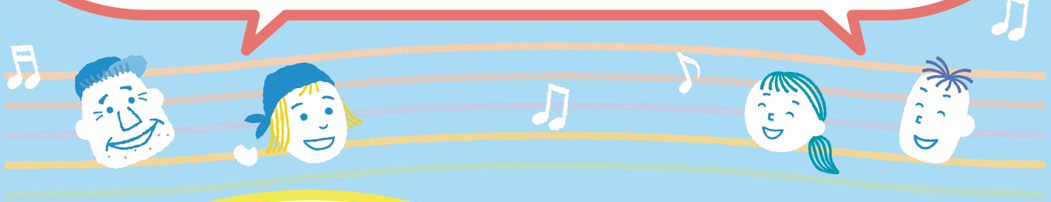
2022年10月23日土曜日　宮崎台小学校で宮崎町内会による「みんなで運動会」が開かれた。
晴天に恵まれて、まるで夏のように気持ちのいい朝。空高く青空が広がり、空に映る旗の飾りが空の青に映えてそれを見るだけでも何故かワクワクしてきた。運動場の端っこでマラソン競技を見ていた20代と思われる若い男女。「今日は何でこれを知ったんですか。」と聞いたら、掲示板のポスターとのこと。引っ越してきたばかりで、街のことが知りたくて参加したという。次の競技に参加すると言うので慌ててお話は切り上げ。参加したくなるの…分かります。何故なら次は、「パン食い競争」！
こんな楽しい運動会を支えていたのは、町内会の大人達だけではない。町内会の子供たちが司会に運営に大活躍。とにかくチーム力が高い。一人が動くと率先して手伝う。大人の仕事も自ら手伝う。そして競技に真剣に取り組む。大人顔負けの活躍だった。大盛り上がりだった「みんなで運動会」。後日、参加者の人数を聞いたところなんと450名だったという。若い男女の言っていた「まちのことが知りたい」。そういう想いを育めるような生活を送っていきたいと、心に残った運動会だった。（南）

競技は面白そうなものばかり。「パン食い競争」「今夜はカレーよ」等。

新しいコト、始めてみたら、まちが面白くなってきた！

近助

まちに暮らす人々のライフスタイルの変化に伴い、町内会・自治会も活動に新たな息吹を吹き込み始めています。



新たな息吹（いぶき）

新しいチャレンジ「犬蔵フェア」

楽しみながら知るイベントは大盛況

「自治会離れ」を耳にし、自治会の役員選考も一苦労なのが、自治会を取り巻く今日の状況。そんな状況を打破しようと犬蔵自治会が独自の取り組み「犬蔵フェア」を、自治会の活動を紹介するイベントとして開催。自治会の活動が書かれたチラシ配布。すぐ隣に活動紹介ブース。防災機材紹介、青色パトロールカー・御神輿の展示、地震体験車、赤十字ボランティアによる三角巾訓練、親子手作り体験、セレサモスの地元野菜販売、自治会特製カレーライス、ドリンク販売、ペット防災ブース、ヨーヨー＆スーパーボールすくい、その他キッチンカーなどなど。カレーライスは無料で振舞われ、そのおいしさもあって、長蛇の列ができていた。（カズ）

お神輿が練り歩きました！

家族の時間「土橋ウォーク」

17カ所の掲示板に難易度高めの土橋クイズ！

土橋町内会で行われている土橋1～7丁目にある掲示板・全17か所を歩いて巡り、クイズに答える「土橋ウォーク」。小学校でも、チラシが配布され我が家も子どもが貰ってきて参加しました。イベント企画の方のお話では、「この機会に、ぜひ町内掲示板を見ていただきたい」とのこと。

掲示板に掲載されたクイズは、「土橋地区」を知り尽くしている猛者じゃないと答えられない問題まで様々。スマホ片手に、調べながら問題を解いているお父さんも(^^)。多くの花壇に遭遇し、ひときわ大きい東名川崎インター前の花壇は四季折々、川崎市の玄関口を彩っています。歩いていると、神社、所々のキレイな花壇、いちょう並木や、東京あたりまで見える高台があったり。自分が住んでいる地区を歩く機会が得られたことは、家族で過ごすいい時間になったと感じています。（西村ルミ）

子どもは掲示板のクイズをその場でスイスイ解いていきます。

今の家族にあわせた企画「花火大会＆天体観測会」

関わりやすいこども会に

コロナの影響で会員数が劇的に減少しました。一時は「子ども会解散案」まで上がりました。そこで会員全員にアンケートを実施すると、子ども会を継続したい人が半数以上もありました。「これを機に運営を見直してもいいと思います」「現代の働き方や家族の過ごし方に合わせた活動だと参加しやすい」など、たくさんのご意見をいただきました。これまでは、「今までがそうだったから。こうやっていたから」という慣例的な運営が多かった。「子どもたちも楽しめるし、そこまで準備も大変じゃないかも」と企画したのが、花火大会と天体観測会。会場になる土橋2丁目公園を使用するための近隣へのチラシ配りを手分けして行いました。当日は各家庭でも持ち寄った手持ち花火でイベントは大盛況。天体観測会も、地域ボランティアの方にご協力いただき大きな望遠鏡で星空を眺め、たくさんの会員に喜んでいただきました。もし、共働きでも、たくさん習い事をしていても「なんか地元で楽しいことしたいな～」と思ったら、ぜひ土橋子ども会にいらしてください！出来るだけシンプルに。だけど、めちゃくちゃ楽しい子ども会を目指して運営しています。（西村ルミ）

道路公園センターに許可をとって行いました。

「ご近助コンシェルジュ」の仕組みは、９人のご近助コンシェルジュと宮前まち倶楽部と宮前区役所（地域振興課、地域ケア推進課）で作ってきました。